

平成26年3月10日

港区生物多様性推進委員会委員長 一ノ瀬友博 様 同委員会委員の皆様  
港区環境リサイクル支援部環境課長 亀田賢治 様

### 第5回 港区生物多様性推進委員会における 港区生物多様性地域戦略（案）に対する意見

港区生物多様性推進委員会副委員長 中村俊彦

誠に残念ですが、港区の生物多様性戦略づくりの最後の委員会（第5回、3月12日）には出席できません。約一年半に渡り、一ノ瀬友博委員長さんをはじめお世話になった皆さまには大変申し訳なく存じます。

ただ、素案についてのヒアリングの際に述べたことが、理解されず、今回の案に反映されていない状況がいろいろあります。副委員であり生物・生態系を専門とする研究者としても再度、私の意見を文章にて提出させていただきます。

#### 意見1. 「3 生物多様性とは」(3頁)の訂正

「平成25年9月4日の素案」では、以下のようになっていました。

**地球上には、人が知らない生物も含め、3000万種以上と言われる多種多様な生物が生きています。たくさんの生物の種は、たくさんの個体、そしてたくさんの細胞や遺伝子からできています。また、たくさんの生物種によって豊かな森や海の生態系がもたらされます。**

**このような遺伝子から種、そして生態系のレベルまで、たくさんの生物・生命の変異や変化、そして様々な生物間のつながりと関係の全てを「生物多様性」と呼んでいます。**

これは、平成24年10月に港区が全区民に対しての自然環境と生物多様性についてのアンケート調査の際に、委員や区のスタッフの皆さんと協議して決め示した「生物多様性とは」です。もちろんこれが完璧だとは言いませんが、いつのまにか、現在の状態になってしまいました。この経緯を区の方に伺っても「国家戦略の定義にしました」とのお答えしか聞けませんでした。現在の案は、以下の点で問題です。

#### 問題1. 「生物多様性」と「生態系」との混同

- ① 「生物多様性とは、あらゆる生きものが、相互に関わりあいながら生きていることをいいます。」が最初に出てきたかとおもうと、後では
- ② 「生物多様性は、長い時間の中で、3つの多様性が複雑につながりあってできたシステムです。」

- ① については「生物多様性」を一言で定義しています。「あらゆる」ではなく、「いろいろな」「さまざまな」もしくは「多種多様な」生きものが「互いにかかわりあいながら生きていること」は事実ですが、それが「生物多様性」と言い切るのはかなり乱暴です。

② は、明らかにおかしな表現です。「生物多様性は、-----システムです」。この表現は「生態系 (ecosystem)」と混同しています。また「生物多様性は、----, 3つの多様性が複雑につながって-----」は、前段の生物多様性のレベルの説明から尾を引いていますが、「生物多様性のレベルは3つ」というのは間違いです。

生物界のレベルは、生物の形態や機能の発現を担う情報伝達のユニットとして「遺伝子」概念がありますが、その上位の生命のレベルとして「細胞」「組織」「器官」「個体」「個体群」「種」「群集・群落」「景観 (景相)」と言った、小さなレベルから大きなレベルまでいろいろあります。もちろんこのレベルは現実には連続しています。「遺伝子レベル」「種レベル」「生態系レベル」の3レベルを代表させて「生物多様性」を理解・分析することに異議を唱えているのはありません。

「遺伝子」「種」「生態系」はどれも概念であり実際に人間が確認するのは大変な事です。私たち人間が最も理解しやすい生物多様性ユニットは「個体」です。「私」もヒトという「種」の「一個体」ですが、その姿や形が多様なのは、遺伝子の多様性に由来します。また、この個体においてのある一定の姿や形、また生殖機能を持った個体のまとまりを「種」する概念があります。いずれにしるその概念認識を科学的することは大変なことです。

## 問題2. 区民調査における生物多様性概念と調査結果との整合性の確保

港区民の方々へのアンケート調査の結果は、「生物多様性を認知していた区民は57%」だったに対し「生物多様性を守ることは大切だ、が85%」という結果がでました。このときの「生物多様性とは」の表記は、多くの区民に理解され、その概念と生物多様性の大切さについて支持して頂いた結果とおもいます。このときの全てのアンケート項目の回答は、この時の「生物多様性とは」を踏まえたものです。したがって、現在の案の「生物多様性とは」の表記の基で、区民調査結果を示すのは、行政としての公正さに問題が生じるとおもいます。

## 問題3. 生物多様性の概念の基本とレベルの理解

生物多様性 (biodiversity・biological diversity) の基本概念は状態としての「変異性 (natural variation)」と「時間と空間の変化性 (patterns in nature)」です。もちろんその多様な要素の「つながり (連続性や関係性)」によって生物界のユニット認識ができます。いわば「いろいろなレベルの生命体がつながり、ユニットを形成する」また「その多様なユニットは新たなレベルの要素として、さらに大きな生命ユニットをもたらす」。この生物・生命の入れ子状態が、生物多様性の実態でありレベル観です。普通は、遺伝子のような小さなレベルから、少しずつレベルを上げながら、最終的には地球全体の生態系レベルへと理解を広げていきます。

いきなり大きな生態系のレベルから、種レベル、そして遺伝子レベルへと、視野を絞り込んでいながらその広がり (変異性) を認識するのは普通の人にはかなり難解です。生物多様性国家戦略には、確かに「生物多様性条約」の引用として、この順番にレベルが解説されていますが、それは、その前段に「地球の成り立ち」や「大絶滅と人間の活動」について、かなり長文の解説を踏まえて後の記述であり、3つのそれぞれのレベルについてもかなり長文の解説がなされています。

原案の「生物多様性とは」では、いきなり生物多様を言い切り、その進化の歴史と現在の種の多様性を述べ、その後3つのレベルの多様性、さらに「生物多様性はシステムです」とまで言い切るのは、あまりに乱暴な論理展開です。もちろん私はこの文章は理解できません。一般の人の理解、いや港区の職員の方々や委員の方々の理解は大丈夫なのでしょうか。大変疑問です。

#### 「訂正方法」

一端、「生物多様性とは」は、区民調査の際に区民に公表したものに戻し、必要であれば、即刻その加筆・修正を委員会でおこない（委員会当日でもできるはず）、委員長から再度に区に提案する。なお、3つのレベルの解説は、図のキャプションとして示す。その場合、生態系レベルが上にあり、遺伝子レベルが下にあるのは差し支えないとおもいます。

### 意見2. 「サプライチェーンの仕組みづくり」と「生物多様性情報の収集・集積」の事業化

- ① みんなで議論してきた「食」「子ども・子育て」「働き方」のプロセスは、素案に比べ、かなりしっかり盛り込まれてきたとおもいます。そして、その最も重要な課題である「サプライチェーン」については、「2020年の達成イメージ」78頁に「港区版サプライチェーンの仕組みがつくれ・・・」と示されています。しかし、具体的な事業に、その言葉が見当たりません。どこかの事業の中に少なくとも「港区版サプライチェーンの仕組みづくりの検討」の文言は入れておくべきとおもいます。
- ② 行動方針の「(1) 生物多様性について知ろう・伝えよう」(88頁)の、主な取組になると、生物多様性を区民等に伝える事業だけになってしまっています(89-91頁)。区が生物多様性情報の収集・集積なくして、伝えるのはむりです。当然、区としてもこれを収集・集積していくべきです。その内容は、後に出てくる「自然環境の調査」とは異なります。

### 意見3. 言葉の使い方の訂正

- ① 「関わり」は、ほとんどの場合「かかわり」と表記すべきです。「関わり」の「関」は、「関所」の関であり、まさに役所言葉として「かかわりあずかる」や「介入する」意味で用います。生物多様性の場合に用いられる「かかわり」は「つながり」とほぼ同意語です。  
最近では「子供」は「子ども」、「障害者」は「障がい者」と、漢字ではなく、かな表記に代えてきています。
- ② 「文化的サービス」、これは「文化サービス」とすっきりした方が、4つの生態系サービスは一般に浸透し理解されやすくなるとおもいます。この問題は、「cultural service」のculturalを「文化的」と直訳したことにはじまり、環境省もそのままつかっています。ただ、日本語で「文化的」とは、「非文化的」な状況に対して、「教養的や理性的、また先進的あるいは都会的」などが融合した意味合いで使われてきました。「文化にかかわる」という意味合いでは、そのまま「文化施設(cultural facilities)」や港区の「図書・文化財課(Library and Cultural Assets Section)」のように「的」は省きます。

私としての疑問点や改善点はまだいろいろありますが、最後の最後の意見として以上を述べさせていただきます。よろしくご意見致します。

24年10月のアンケートで使用した説明文

## 生物多様性と港区生物多様性地域戦略について

### 【生物多様性とは】

地球上には、人が知らない生物も含め、500万種以上と言われる多種多様な生物が生きています。

たくさんの生物の種は、たくさんの個体、そしてたくさんの細胞や遺伝子からできています。

また、たくさんの生物種によって豊かな森や海の生態系がもたらされます。

このような遺伝子から種、そして生態系のレベルまで、たくさんの生物・生命の変異や変化、そして様々な生物間のつながりと関係の全てを「生物多様性」と呼んでいます。

生物多様性の一員である私たち人間も、毎日食べる米や野菜、肉や魚から、木材や医薬など生物多様性の恵みで暮らし、またきれいな空気、さらには心の安らぎや芸術・文化も生物多様性の恵みを受けています。

### 【港区生物多様性地域戦略とは】

「港区生物多様性地域戦略」は、豊かな自然環境の象徴である動植物の生息・生育環境の充実を図り、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組みを、総合的に推進することを目的に策定する計画です。

港区では、大切な生物多様性を守り、子どもたちの未来に伝えることを目指して、「港区生物多様性地域戦略」の策定に取り組みます。

この計画は、区民や事業者の参加と協力を得て、平成24・25年度の2カ年で策定します。